

環境経営レポート

(活動期間: 2023年4月～2024年3月)



2024年 8月31日

新栄建設株式会社

代表取締役社長 高平 公輔

1. 組織の概要

- | | |
|------------|---|
| (1)会社名 | 新栄建設 株式会社 |
| (2)代表者 | 代表取締役社長 高平 公輔 |
| (3)所在地 | 〒930-0263
富山県中新川郡立山町大清水18番地 |
| (4)環境管理責任者 | 取締役工務部長 高平 尚 |
| (5)連絡先 | Tel:076-463-1165
Fax:076-463-3674
E-mail:shin-ei@silver-wing.co.jp |
| (6)事業内容 | 総合建設業
・建設業許可 富山県知事(特-3)第1号
土木工事 建築工事 とび・土工工事
舗装工事 解体工事 水道設備工事
大工工事 石工事 屋根工事
防水工事 鋼構造物工事
タイル・れんが・ブロック工事
内装仕上工事
・建設業許可 富山県知事(般-3)第1号
管工事 |
| (7)事業規模 | 設立年月日 1950年2月3日
資本金 4,000万円
工事完成高 170,629万円
従業員数 43名
敷地面積 13780.36㎡
延床面積 本社社屋 3454.57㎡
機械室 77.50㎡ |
- ※ 2024年3月末日現在
※ 工事完成高は、2023年6月～2024年5月

2. 対象範囲

- | | |
|-------------|------------------------|
| (1)認証・登録範囲 | 土木工事・建築工事の施工管理 |
| (2)レポート対象期間 | 2023年4月1日 ～ 2024年3月31日 |
| (3)レポートの発行日 | 2024年8月 |

3. 環境経営方針

当社は、主に富山県立山町・富山市を中心に、公共工事をメインに土木・建築工事業を営んでいます。

当社が事業活動を行うことにより、環境へ様々な営業を与えていることを自覚し、従業員全員で環境問題について勉強し、エコアクション21環境経営システムを構築・運用することにより、環境への取組みを自主的・積極的に進めて行きます。

当社は、次の事項について重点的に取り組みます。

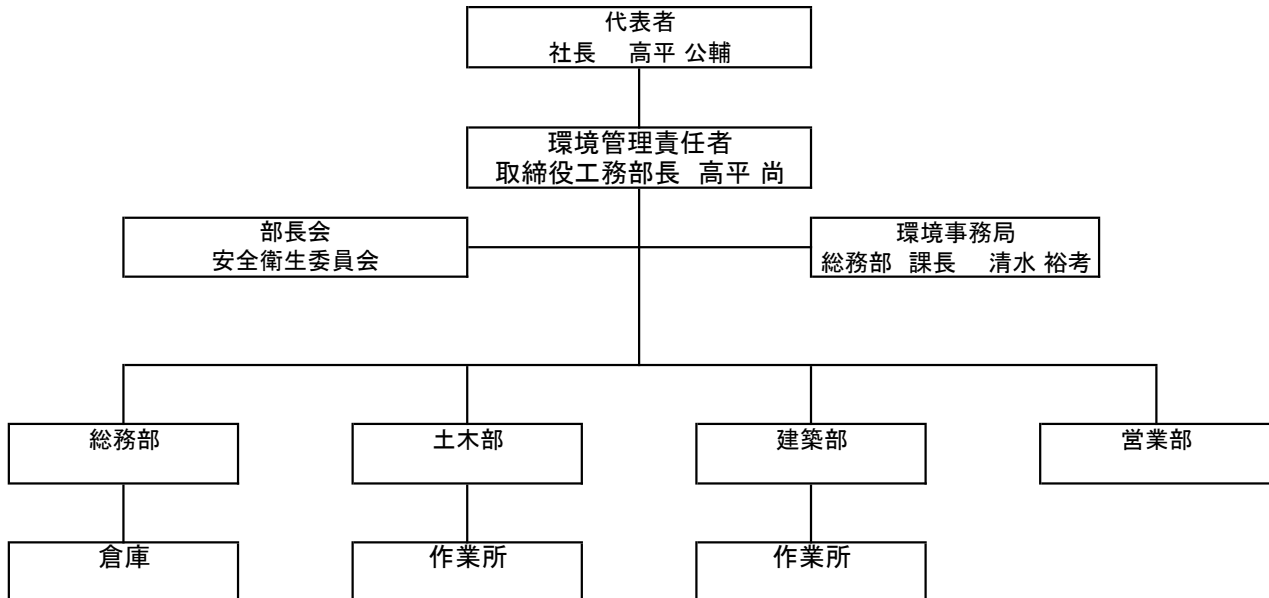
- ① 当社が守らなくてはならない環境関連法規や条例等を明らかにし、これを遵守します。
- ② 環境改善のため環境目標を定め、定期的に見直し、継続的な環境負荷の低減を目指します。
- ③ 事業活動に伴う環境影響を低減するため、以下の活動を実施します。
 - 1) 二酸化炭素排出量の削減
 - 2) 建設産業廃棄物のリサイクルの促進
 - 3) 一般廃棄物の削減
 - 4) 水資源の節約
- ④ 環境経営の強化を図るため、以下の活動を実施します。
 - 1) 事業活動による油流出事故の防止
- ⑤ 地域貢献活動の継続
 - 1) クリーン作戦の実施
 - 2) 職業体験の受入れ
 - 3) 地域行事への参加
- ⑥ 全従業員にこの方針を周知し取り組みます。

2022年4月1日
新栄建設 株式会社
代表取締役社長
高 平 公 輔

4. 実施体制

制定日：2022年4月1日
改定日：2023年10月1日

新栄建設株式会社 実施体制図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理、 ・環境関連法規等の取りまとめ票を承認 ・環境目標・環境活動計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告・ ・環境活動レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門長	・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 ・テスト、訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

5－1. 環境経営中間目標(2023年度～2025年度)【本社】

項目	単位	基準値 (3年平均)	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			目標率	目標値	目標率	目標値	目標率	目標値	目標率	目標値
完成工事高	百万円	1,612.9	—	—	—	—	—	—	—	—
二酸化炭素排出量	kg-CO2	130,134.0	98%	127,531.4	97%	126,230.0	96%	124,928.7	95%	123,627.3
電気使用量	kwh/M¥	67.3	98%	65.9	97%	65.3	96%	64.6	95%	63.9
ガソリン	L/M¥	5.5	98%	5.4	97%	5.3	96%	5.3	95%	5.2
軽油	L/M¥	3.0	98%	3.0	97%	3.0	96%	2.9	95%	2.9
灯油	L/M¥	1.1	98%	1.1	97%	1.0	96%	1.0	95%	1.0
LPG	kg/M¥	8.7	98%	8.5	97%	8.4	96%	8.3	95%	8.2
廃棄物排出量										
一般廃棄物	kg	—	—	—	—	—	—	—	—	—
地下水使用量	m3	942.8	98%	924.0	97%	914.5	96%	905.1	95%	895.7
油流出事故	件	0	100%	0						
社会貢献活動										
クリーン作戦	回	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%	1
14歳の挑戦	回	—	—	—	—	—	—	—	—	—
インターンシップ	回	—	—	—	—	—	—	—	—	—
立山まつり参加	回	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※ 基準値は、2019年度から2021年度までの3年度の平均で算出しています。

※ 電気使用量の排出係数は、北陸電力の「0.468」を使用しています。

※ 一般廃棄物排出量については、排出量把握が2022年10月からであるため目標を定めず、排出量の把握に努めます。

※ 「クリーン作戦」は、本社前幹線道路のごみ拾い清掃活動です。

※ 職業体験等には、中学生の「14歳の挑戦」、高校生の企業訪問、高校生・大学生等のインターンシップが該当します。目標回数は設定せず、学校側から要請があった場合に受け入れます。

※ 「立山まつり」は、立山舟橋商工会が主催する地元の住民・企業でつくる祭りです。

※ 化学物質については使用していません。

5－2. 環境経営中間目標(2023年度～2025年度)【現場】

項目	単位	基準値 (3年平均)	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
			目標率	目標値	目標率	目標値	目標率	目標値	目標率	目標値
完成工事高	百万円	1,612.9	—		—		—		—	
二酸化炭素排出量	kg-CO2	218,521.6	98%	214,151.2	97%	211,965.9	96%	209,780.7	95%	207,595.5
電気使用量	kwh/M¥	22.5	98%	22.1	97%	21.9	96%	21.6	95%	21.4
ガソリン	L/M¥	8.3	98%	8.1	97%	8.0	96%	7.9	95%	7.8
軽油	L/M¥	37.7	98%	37.0	97%	36.6	96%	36.2	95%	35.8
灯油	L/M¥	3.4	98%	3.3	97%	3.3	96%	3.3	95%	3.2
廃棄物排出量										
産業廃棄物	t	3189.6	98%	3125.8	97%	3093.9	95%	3030.1	96%	3062.0
リサイクル率	%	—	95%		95%		95%		95%	
工事評価点	点	—	—		80		80		80	
油流出事故	件	0	100%	0						

※ 基準値は、2019年度から2021年度までの3年度の平均で算出しています。

※ 電気使用量の排出係数は、北陸電力の「0.468」を使用しています。

※ 化学物質については使用していません。

6. 環境活動計画

1. 二酸化炭素排出量の削減

①電気使用量の削減

- ・不要照明の消灯
- ・OA機器等、未使用時の電源オフ
- ・冷暖房の適正使用
- ・エアコンフィルターの定期清掃(8, 12月)
- ・クールビズ・ウォームビズの推進

②自動車燃料使用量の削減

- ・エコドライブの推進
- ・過積載の禁止

③軽油・灯油使用量の削減

- ・トラック、重機のエコドライブ推進
- ・軽油・灯油使用機材の適正使用

④LPG使用量の削減

- ・冷暖房の適正使用

2. 廃棄物排出量の削減

①産業廃棄物排出量の削減

- ・分別の徹底
- ・再資源化の推進

②一般廃棄物排出量の削減

- ・排出量の把握
- ・ペーパーレスの推進
- ・コピー用紙の両面印刷
- ・印刷物の裏紙使用
- ・分別、リサイクルの推進

3. 水資源(地下水)の節約

- ・節水を心掛ける
- ・冷暖房の適正使用
- ・融雪装置の適正使用

4. 油流出事故の防止

- ・建設機械の始業前点検の実施
- ・油貯蔵施設の点検
- ・油流出時対応資材の確認・常備
- ・油流出時対応訓練の実施

5. 社会貢献活動の継続

- ・社屋前幹線道路の清掃活動(年1回)
- ・中学生の「14歳の挑戦」、高校1年生の企業訪問、高校生・大学生等のインターンシップの受入れ
- ・「立山まつり」への参加

7-1. 環境経営目標の実績【本社】

項目	単位	基準値 (3ヶ年平均)	2023年度			
			目標率	目標値	実績値	達成率
完成工事高	百万円	1,612.9	1,706.0			
二酸化炭素排出量	kg-CO2	130,134.0	98%	127,531.4	112,030.6	113.8%
電気使用量	kwh/M¥	67.3	98%	65.9	45.3	145.7%
ガソリン	L/M¥	5.5	98%	5.4	6.0	89.2%
軽油	L/M¥	3.0	98%	3.0	2.5	122.0%
灯油	L/M¥	1.1	98%	1.1	0.9	117.3%
LPG	kg/M¥	8.6	98%	8.5	7.3	115.8%
廃棄物排出量						
一般廃棄物	kg	—	—	—	804.2	—
地下水使用量	m3	942.8	98%	924.0	725.2	127.4%
油流出事故	件	0	100%	0	0	100%
社会貢献活動						
クリーン作戦	回	1	100%	1	1	100%
14歳の挑戦	回	—	—	—	1	—
インターンシップ	回	—	—	—	2	—
立山まつり参加	回	—	—	—	1	—

※ 基準値は、2019年度から2021年度までの3年度の平均で算出しています。

※ 電気使用量の排出係数は、北陸電力の「0.468」を使用しています。

※ 「クリーン作戦」は、本社社屋前幹線道路のごみ拾い清掃活動です。

※ 「14歳の挑戦」は、地元の中学生2年生の職業体験活動です。

※ 「インターンシップ」は、高校生・短大生・大学生を対象としています。

※ 「立山まつり」は、立山舟橋商工会が主催する地元の住民・企業でつくる祭りです。

※ 化学物質については使用していません。

7. 環境経営活動の取組結果と評価及び次年度の取組内容

(1) 取組結果と評価【本社】

項目	結果(達成率)	評価
電気	達成。 145.7%であった。	達成できた。 2021年11月に導入した本社の太陽光発電が削減に大きく寄与した。
ガソリン	未達成。 89.2%であった。	達成できず。 社員が増加し、貸与する自動車の保有台数も増えたことの要因と考えられる。
軽油	達成。 122.0%であった。	達成できた。 前年度と比較して現場までの距離が短くなったことも要因と考えられる。
灯油	達成。 117.3%であった。	達成できた。 前年度と比較すると暖冬の傾向にあったため、使用量が減ったと考えられる。
LPG	達成。 115.8%であった。	達成できた。 前年度と比較すると暖冬の傾向にあったため、使用量が減ったと考えられる。
一般廃棄物	—	排出量の把握が2021年10月からであったため、目標設定・評価できず。 引き続き排出量の把握に努める。
地下水	達成。 127.4%であった。	達成できた。 設備の不具合を修繕して改善した。
油流出事故防止	達成。 100%であった。	達成できた。 問題なし。
社会貢献活動	実施。	クリーン作戦を1回、「14歳の挑戦」1回、インターンシップ2回、高校生企業訪問1回受け入れ、立山まつりに参加した。

7-2. 環境経営目標の実績【現場】

項目	単位	基準値 (3ヶ年平均)	2023年度			
			目標率	目標値	実績値	達成率
完成工事高	百万円	1,612.9	1,706.0			
二酸化炭素排出量	kg-CO2	218,521.6	98%	214,151.2	170,999.7	125.2%
電気使用量	kwh/M¥	22.5	98%	22.1	14.2	155.6%
ガソリン	L/M¥	8.3	98%	8.1	7.7	105.0%
軽油	L/M¥	37.7	98%	37.0	29.0	127.5%
灯油	L/M¥	3.4	98%	3.3	0.4	832.2%
廃棄物排出量						
産業廃棄物	t	3189.6	98%	3125.8	3,295.0	94.9%
リサイクル率	%	—	95.0%		99.4%	
油流出事故	件	0	100%	0	0	100%

※ 基準値は、2019年度から2021年度までの3年度の平均で算出しています。

※ 電気使用量の排出係数は、北陸電力の「0.468」を使用しています。

※ 化学物質については使用していません。

7. 環境経営活動の取組結果と評価及び次年度の取組内容

(1) 取組結果と評価【現場】

項目	結果(達成率)	評価
電気	達成。 155.6%であった。	達成できた。 建築の現場が少なく、発電機での使用に偏ったと考えられる。
ガソリン	達成。 105.0%であった。	達成できた。 前年度と比較して現場までの距離が短くなったことも要因のひとつと考えられる。
軽油	達成。 127.5%であった。	達成できた。 問題なし。
灯油	達成。 832.2%であった。	達成できた。 暖冬の影響もあり、ブルーヒーターの使用時間が短くなったと考えられる。
産業廃棄物	未達成。 94.9%であった。	達成できず。 排出量は達成できなかったが、リサイクル率は99.4%と目標を達成できた。
油流出事故防止	達成。 100%であった。	達成できた。 問題なし。

(2)次年度の取組み

1. 二酸化炭素排出量の削減

①電気使用量の削減

- ・不要照明の消灯
- ・OA機器等、未使用時の電源オフ
- ・冷暖房の適正使用
- ・エアコンフィルターの定期清掃(8, 12月)

②自動車燃料使用量の削減

- ・エコドライブの推進
- ・過積載の禁止

③軽油・灯油使用量の削減

- ・トラック、重機のエコドライブ推進
- ・軽油・灯油使用機材の適正使用

④LPG使用量の削減

- ・冷暖房の適正使用

2. 廃棄物排出量の削減

①産業廃棄物排出量の削減

- ・分別の徹底
- ・再資源化の推進(リサイクル率95%以上)

②一般廃棄物排出量の削減

- ・ペーパーレスの推進
- ・コピー用紙の両面印刷
- ・印刷物の裏紙使用
- ・分別、リサイクルの推進

3. 水資源(地下水)の節約

- ・節水を心掛ける
- ・冷暖房の適正使用
- ・融雪装置の適正使用

4. 環境経営基盤の強化

- ・工事評価点 平均80点以上

5. 社会貢献活動の継続

- ・社屋前幹線道路の清掃活動(年1回)
- ・中学生の「14歳の挑戦」、高校1年生の企業訪問、高校生・大学生等のインターンシップの受入れ
- ・「立山まつり」への参加

9. 環境関連法規の違反、訴訟等の有無

当社に適用される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関係機関からの指摘や利害関係者からの訴訟もありませんでした。

法規等の名称	適用範囲	具体的な適用対象	評価結果
廃棄物処理法	産業廃棄物	がれき類、ガラスくず、廃プラ、金属くず、汚泥、木くず、廃油など	○
資源有効利用促進法 (ラージリサイクル法)	指定副産物	土砂、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊	○
建設副産物適正処理推進要綱	再資源化、分別解体、収集運搬等に係る発注者、請負者の責務と役割		○
建設リサイクルガイドライン	搬入する建設資材、搬出する建設副産物	搬入する建設資材、搬出する建設副産物 搬出：建設発生土、建設廃棄物	○
建設リサイクル法	新築・解体改修工事及び一般土木工事	〈特定建設資材〉コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材、アスファルト・コンクリート	○
容器包装リサイクル法	一般廃棄物	容器包装廃棄物	○
消防法(消防条例)	貯蔵・取扱い基準	少量危険物貯蔵取扱所(油タンク)	○
フロン排出抑制法			○
オフロード法	排出対策型建設機械	出力19kw以上、560kw未満の原動機を搭載した建設機械	○

10. 代表者による見直し

代表者による評価・見直しの記録				確 認	作 成
見直し実施者	代表取締役社長 高平 公輔			高平	高平
見直し実施日	2024年 6月28日				
確 認 ・ 評 価 し た 資 料					
文 書	確 認	記 録		確 認	
環境方針	✓	環境への負荷の自己チェック		✓	
環境目標	✓	環境への取組の自己チェック		✓	
環境活動計画	✓	環境関連法規制等の順守状況確認		✓	
環境関連法規等のまとめ	✓	外部からの苦情・情報の記録		✓	
実施体制	✓	環境上の緊急事態の訓練記録		✓	
緊急事態対応手順	✓	環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況と結果		✓	
環境活動レポート	✓	不適合是正・予防処置報告書		✓	
取組状況全体の評価					
システムが有効に運用されているか(要求事項を満足しているか)				適	不適
取組が適切に行われているか				適	不適
見直しの必要性					
環境方針	あり	なし	実施体制	あり	なし
環境目標	あり	なし	その他	あり	なし
環境活動計画	あり	なし			
見直し具体的内容					
登録審査時に指摘のあったように、工事の内容によって使用する化石燃料の量が大きく変わるため、より比較しやすいよう原単位(/M¥)に単位を変更し、数値も会社全体から本社と現場に分けて監視を行った。 結果としてガソリン、産業廃棄物排出量以外の項目について目標を達成することができた。産業廃棄物に関しては、排出量だけではなく、リサイクル率を監視項目に追加し、リサイクル率を重要視するように変更した。 2024年度からは、環境経営基盤の強化を目的に、油流出事故の発生件数ではなく、ISO9001でも指標のひとつとしている工事評価点の向上(平均80点以上)を目標として据えた。 2023年度の後半から環境管理責任者にと締役を据え、環境経営の強化を図っている。2024年度には、SDGs宣言を行った。これからも新栄建設の環境への取組みを社内外に広く発信していきたい。					